

第7章

第60回 日米学生会議概要

第60回日米学生会議テーマ

“Students Redefining Their Role through Insight and Action”

新たな潮流へ～60回を通しての再考と創出～

「世界の平和は太平洋の平和にあり、太平洋の平和は日米間の平和にある。その一翼を学生も担うべきである」という理念の下、1934年、満州事変を契機に悪化していた日米関係を憂慮していた4人の日本人学生が太平洋を渡り、日米学生会議を創設した。以後、太平洋戦争勃発に伴う会議中断をはじめ数々の困難を乗り越えながら、学生同士の率直な対話が相互理解を深め、平和の実現に貢献するという創設者の信念が継承され今日に至る。日米学生会議は創設時より学生独自による会議の企画、運営が行われ、毎年夏日米交互で開かれる約1カ月の会議は、日米の学生による相互理解と友情を醸成する場であり続けた。

現在の日米関係は、歴史上最も成熟した二国間関係とも言われるようになり、創立当初の目的は達成されつつある。しかし我々を取り巻く世界に目を向けると、テロリズム、環境問題、貧困、民族問題など様々な問題が山積している。このような状況の中で日米両国は、良好な二国間関係のみに満足せず、「世界の中の日米」という視点に立った行動が求められている。一方で、数々の困難を乗り越えながら日米関係に寄与し続けてきた日米学生会議は、良好と思われがちな日米関係、国際交流の一般化、社会貢献を掲げる学生団体の増加など様々な要因によって差別化と新たな価値の創出が求められている。第60回日米学生会議は、“Students Redefining Their

Role through Insight and Action”「新たな潮流へ～60回を通しての再考と創出～」をテーマとして掲げ、ポートランド、ロサンゼルス、モンタナ、ボストンで開催される。この記念すべき第60回会議を機に、日米関係、また日米学生会議自体を問い直し、さらなる発展への追求を目指す。

日米両国の学生は、文化や言語の壁を乗り越えながら、特定の利益に拘束されない率直な議論を交わすこととなる。その過程において、参加者は自身の考え方や価値観の根幹、そして社会の中における自身の役割を見つめ直す機会に遭遇するだろう。第60回日米学生会議では、分科会活動、フォーラム、フィールドトリップなどで個人が主体的に行動する場を設けることにより、自身の考えや思いを積極的に発信していくこととなる。また、政府、地方自治体、NGO、NPO、有識者の方々及び会議参加者以外の学生との対話を積極的に取り入れ、共に再考する機会も創出していく。このように日米学生会議を通じて得られた経験や成長はそれぞれの参加者に蓄積され、築き上げた信頼と絆は様々な問題を解決する一助となり、必ずや世界に平和をもたらすための礎となるだろう。第60回日米学生会議は、学生独自の意見や考えを発信し、行動する場を設け、未来への強固な基盤を創出することにより、新たな潮流を生み出す会議となることを目指す。

主催

財団法人 国際教育振興会

企画・運営

第60回日米学生会議実行委員会

開催期間

2008年7月28日(月)～2008年8月22日(金)

開催地

ポートランド

ポートランド、1935年アメリカで初めて日米学

生会議が開催されたこの土地から私たちの旅は始まる。ポートランドは雄大な山々と穏やかな気候に恵まれ、自然の豊かさと都市の機能性が調和する街として知られている。このような魅力あふれる街である一方、この土地は日米間の暗い歴史も刻んでいる。日系アメリカ人強制収容所などの第二次世界大戦の負の遺産。現在では強固な同盟を持つ二国ではあるが、日本とアメリカはほんの60数年間までお互いに憎しみあっていた。この土地で私たちはポートランドの魅力を堪能しながら、日米関係の過去、現在、そして未来について再考させられることになるだろう。

ロサンゼルス

ロサンゼルスはアメリカで人口第2位の西海岸を代表する大都市である。西海岸最大の商業、金融拠点であるのと共に、アメリカ最大の貿易港であり、対アジア貿易における役割は巨大だ。ハリウッドに代表されるエンターテインメント産業が常に世界をリードする一方で、電子機器、宇宙産業、バイオ産業など様々な最先端技術の成長も著しい。また、ロサンゼルスは民族多様性で知られ、特定の人種が過半数を占めていない数少ない都市でもある。われわれ参加者は超大国アメリカの活気の根源に触れるとともに、アメリカを象徴する多様性を肌で感じる事となる。

モンタナ

モンタナは日本とほぼ同じ面積を有し、100万人ほどの人々が農業や牧畜を主として暮らしている。またイエローストーン国立公園を始めとして、ロッキー山脈、グレートプレーンズなど、雄大で豊かな自然に恵まれており、アメリカの原風景を現代にまで留めている。一方で、キリスト教信仰心の深い人々が多く住んでいることや、白人入植者とネイティブアメリカンが最後の死闘を繰り広げた歴史など、多様な側面を持つ土地でもある。本サイトでは、大都市とは異なるアメリカの一面を、ホームステイや環境フォーラム、ネイティブアメリカン居留地への訪問などを通じて参加者に

体感してもらう。そして人が自然との共存を図るここモンタナから、アメリカの原点とこれからを見つめ、多様なアメリカ社会への理解を深める事を目的とする。

ボストン

ボストンはアメリカの東海岸に位置し、マサチューセッツ州の州都である。英国的な雰囲気のある歴史的建造物が多く観光地としても有名である。近郊には有名なハーバード大学やマサチューセッツ工科大学を擁していて、日本の高等教育機関との違いを比較し、再考するきっかけとなるであろう。また、ボストン美術館や科学博物館などといった芸術関連の施設も充実している。そして今年メジャーリーグでワールドチャンピオンとなったボストン・レッドソックスの本拠地がある。本サイトは学術面・エンターテインメント面の双方から特化した都市で、我々の1ヵ月間の議論の集大成を社会に発信する最適の場となるであろう。

会議の過程

第59回日米学生会議の参加者から選出され、発足した実行委員会が、日本側の主催団体である財団法人国際教育振興会、米国側はJASC,Inc.の協力の下、本会議開催のための準備活動を行う。4月に参加者の決定後、所属分科会のテーマに関するレポートを作成し、講演会や勉強会、合宿などの事前準備を行い、夏の本会議に臨む。

本会議では、日米各36人、合計72人の学生が約1ヵ月に渡って共同生活を送る。本会議の主な活動として、討論が中心となる分科会、各種のフィールドトリップ、そして様々な社会活動、終盤に開催されるフォーラムなどが挙げられる。参加者は7つの分科会に分かれ、第60回会議のテーマである「新たな潮流へ～60回を通しての再考と創出～」の下、ディスカッションを行う。また、フィールドトリップでは、各自の視野を広げ、討論の充実化を図る。さらに、本会議では議論に止まらず、ホームステイやフォーラムなど積極的に地域の方々との交流を図っていく。また、フォーラムでは、分科会での討論の結

第7章 第60回日米学生会議概要

果など本会議の成果を社会に向けて発信する。

本会議終了後には、参加者は会議の内容を報告書にまとめ、第60回日米学生会議の総括とする。各参加者は、本会議で得られた経験を胸に、社会へと巣立っていく。

会議中のプログラム

分科会

本会議においての活動の中心となる分科会は7つ設けられており、日米双方5名ずつの学生が、本会議期間中を通じて議論を重ねることとなる。事前活動に加え、本会議中もフィールドトリップで関連機関や専門家を訪問するなど、議論の質の向上を目指す努力が続けられる。なお、第60回会議における分科会は以下の通りである。

●法と社会

Comparative Law and Society

●マイノリティー問題

Minority Issues: From Social Discrimination to Social Contribution

●CSRと市民～新たな社会発展の視点～

Corporate Social Responsibility in Development

●現代社会と伝統～調和と共生の模索～

Exploring the Relationship between Tradition and Modernity

●科学と倫理～真に豊かな社会形成を目指して～

Ethics: Holding Science Accountable to Humanity

●環境と人間～自然と共生するために～

Communicating Environmental Ethics: Media, Mindset and Ecological Inspiration

●悲劇の記憶～歴史認識と教育の役割～

Memory of Tragedy: Examining Vehicles of Bias, Education and Peace

Field Trip

分科会の議題や各開催地に対する理解を深めることを目的に、政府機関、国際機関、企業、大学、NGO、及び研究所などへの訪問研修を実施する。事前活動におけるものと同様に、社会と直接関わ

ることのできる貴重な機会であり、議論をより現実的視点から行うための礎とする。

Special Topics

限定された議題を扱う分科会とは異なり、参加者が個々の関心に沿った議題を自由に設定し、異なる視点からの議論を行うことを目的としている。また参加者の主体的、自発的な参加により、問題発見、及び議題設定能力を養う、同時により広い参加者同士の交流を促し、新たな視点や発想の獲得により、会議をより充実させることも求められる。

Conference Wide Discussion

分科会では扱わないテーマを対象とし、日米学生会議アルムナイや専門家をゲストスピーカーとして招き、第60回会議のテーマである「再考と創出」を掲げ、既存の事柄への問いかけをするとともに、新たな潮流へと向かう可能性について参加者と共に考えることを目的とする。

Conference Wide Reflection

参加者が一同に集い、会議中に感じた悩み、不安、感動、喜びなど、様々なことを自由に話し合う。自分の思いを全体に伝え、また他者と思いを共有することで、自己を振り返り、他の参加者との相互理解を促進することを目的とする。

Forum

各開催地のテーマに沿って随時行われる。第一線で活躍する専門家や有識者の講演、または学生を交えたパネルディスカッションなど、参加者に学術的経験を得てもらうことを目的とする。さらには、分科会の成果の発表を行い、現代社会が抱える問題とそれに対する学生なりの視点を来場者と共有することによって、第60回日米学生会議の成果を社会に発信することも目的としている。